



俳優
柳 浩太郎

誰かのことに気づいて、察して、優しくしてあげてください。
誰かのために。

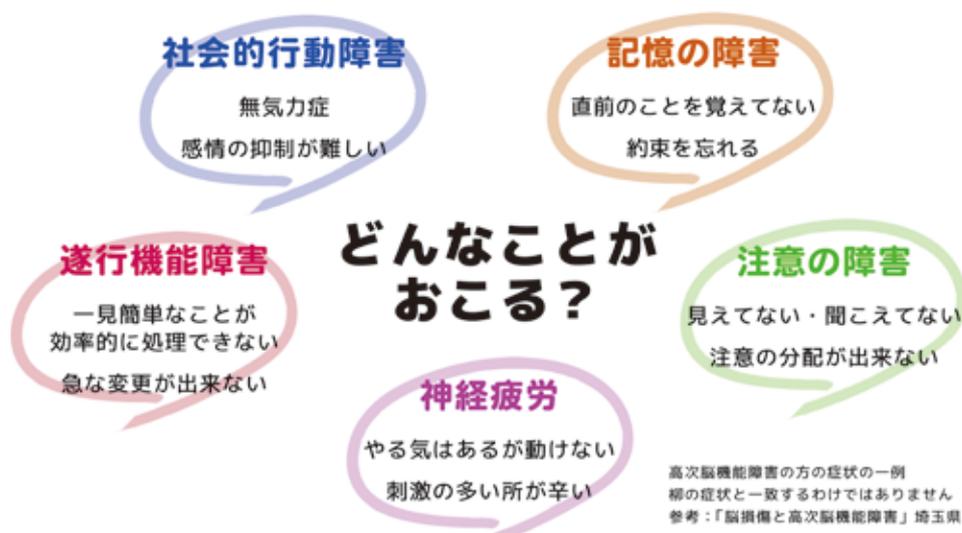
2020-21年度、2730地区インターアクト年次大会は新型コロナウイルスの影響により中止になりましたが、鹿児島RCがホストクラブを務める鹿児島城西高校と鹿児島実業高校のインターアクト部の生徒達が、年次大会で講演を予定していた俳優・柳浩太郎さんに講演収録をお願いし、DVDにまとめました。柳浩太郎さんが経験された事故からの復活と貴重なメッセージの数々をDVDから要約して記事に致しました。

国際ロータリー第2730地区インターアクトクラブの皆さん、こんにちは。柳浩太郎です。僕は俳優です。8月の講演会で会えることを楽しみにしてたんですが、鹿児島に行けなくなってしまったのでビデオレターっぽくいきますね。

僕は高2の時、コンテストがきっかけで芸能事務所に入り、高3の4月にミュージカル「テニスの王子様」でデビューしました。その年12月に交通事故で脳にダメージを受け、左半身麻痺、高次脳機能障害が残った。高次脳機能障害は見えない障害で、こだわりが強くなる、感情のコントロールができなくなる、同時にいくつものことができなくなる、忘れっぽい、空気が読めないとかあるんだよね。2016年のリオのパラリンピックでは高次脳機能障害のある選手が自転車と馬術で二人出場したんだ。みんなは「彼らは絶対すごい努力をしたはずだ」って感じると思うけど、僕はそこまでくるには選手以外の、周囲の人の助けや頑張りがあると思うんだよね。**人の助けが必要ってことが障害者には当たり前なんだ。**

僕は事故のあと一週間目がさめなくて、医者からもダメかもしれないと言われて、意識が戻っても自分のことがわからず、話すことも起き上がることもできなかった。1か月でリハビリを始めて、仲間が代役してくれた舞台に1年後に復帰することになった。それができたのは仲間の存在があったからなんだ。一人二役はあるけど、二人一役で大変なところは先輩がさりげなくやってくれて周りがサポートしてくれた。自分の出番も、物音で集中力が切れて「やべー」とかテンパっても、仲間が舞台の袖で「はい、キュー」みたいにやってくれた。よく「頑張ればできるでしょ」って言われるけど、頑張ってもできないものはできない。**障害者は甘えてはいないし、必死なんだ。サポートは必要なもの。**見た目ではわからないから、知らない人と関わるとつらいことがいっぱい起こるんだよね。**みんなに障害のことを知ってほしい。理解が少しでも進んで障害者が生きやすい環境になればいいなと思います。**

【高次脳機能障害とは】脳血管疾患（脳梗塞）や頭部外傷（交通事故）などで脳の一部を損傷すると、身体麻痺や言語障害とは別に、認知機能に障害が生ずる場合がある。





相手のことをよく見て、まずいことが起こったら 周りが気付いてあげられたらいいんじゃないかと思うんですよね。



ヘルプマークを知っていますか？
**援助が必要な方のための
マークです。**

外見からは分からなくても援助が必要な方がいます。
このマークを見かけたら、電車内で席をゆずる、
困っているようであれば声をかける等、
思いやりのある行動をお願いします。

皆さん、これ知ってますか？ヘルプマークっていうんですけど、東京都営地下鉄から始まった運動で地下鉄の事務所に行くともられます。さっきは理解してほしいと言ったけど、本当は協力者が増えてほしいと思ってるんです。じゃ、具体的に何をしてほしいかという話をしますね。コンビニでのことなんですけど。僕がカゴを使わずにお菓子とか両手で取っていっぱいになって、コーヒーの前で立ち止まって考えてた時、新入社員みたいな人が「大丈夫？持つよ。レジでしょ？」とコーヒー持ってスタスタ行っちゃったんだ。

僕はすげえ嫌だった。僕には僕のペースがある。自分の価値観で判断しないで、まずは僕の答えを聞いてほしかった。「助けは必要」と決めつける前に、まずは相手の答えを聞いて欲しいんだ。

退院してから一人で行動することが多いからトラブルが頻繁に起こる。僕のペースでやってると、「何だコイツ」とか「おっせえな」とか勘違いされることが多い。ゆっくりでもできることは自分でやりたい。どんなヘルプがほしいかという、一緒に歩く人にはゆっくり歩いてほしい。神経疲れしやすいからこまめに休憩をいれてほしい。状況はいつも違うけど。



ここで英語の話をズバーンと入れますね。アメリカ人ってジェスチャーが多いじゃないですか。日本人には少なく、ジェスチャーやると「おいおい、アメリカ人かよ」って斜めに見るけど、ジェスチャーは伝えるためにやってると思うんですよ。僕は小学生時代インドにいてアメリカンスクールでうまく英語が話せないとき、相手のしぐさ、表情で伝わってるかみてた。それと同じで、相手のことをよく見て、本人が声を上げてなくても、まずいことが起こったらまわりが気付いてあげられたらいいんじゃないかと思うんですよ。

ではどんなことをしてもらったら嬉しいか、という話を2つしますね。一人の俳優との思い出話みたいなことなんですけど。舞台稽古の時の話なんですけど。僕、休憩中タバコ吸うんですよ。火をつけて灰を落とす時、右目メインで生活してるんで距離感がつかめなくて灰皿にうまく落とせない。灰が地面に落ちちてまわりの冷たい視線が来るんじゃないかと不安な思いでいて、その時「柳、もうちょっと前だよ」って言うてくれて灰皿にジャストインしたの。それがめちゃうれしかった。

それからもう一つ、事務所の大先輩のお葬式があって、長時間同じ姿勢で立ってないといけなかった。まっすぐ立つだけでもすごく大変で、がんばったけどコンディションが最悪になった。そのとき、誰かが発した言葉に笑いたくなくなったんだよね。みんな葬式だから笑いをこらえている。でも僕はスイッチが入って感情のコントロールができず、笑いをこらえて体が震えた。知らない人から見ると「コイツやべえ。痙攣してる」って思うよね。この時さっきのヤツが来て僕を抱きしめてくれて「柳、大丈夫だから」って、周りからも目に入らないようにしてくれた。どうですか、こんなイケメンいますか？彼はきつと「なんなんだこいつ」って感じではなくて、僕のいつもと違う様子に疑問を抱きながら観察してた。そして、さりげなくヘルプしてくれてたんです。そういうところがいいと思うんですよね。

皆さんもそうやって誰かのことに気づいて察して優しくしてあげて下さい。誰かのために僕からもよろしくお願いします。最後に3つのキーワードを言って終了します。

Look (さりげなく相手のことを見る)

Respond (相手の返答を待つ)

Take care (相手がして欲しいことをする)

あざっす!!

